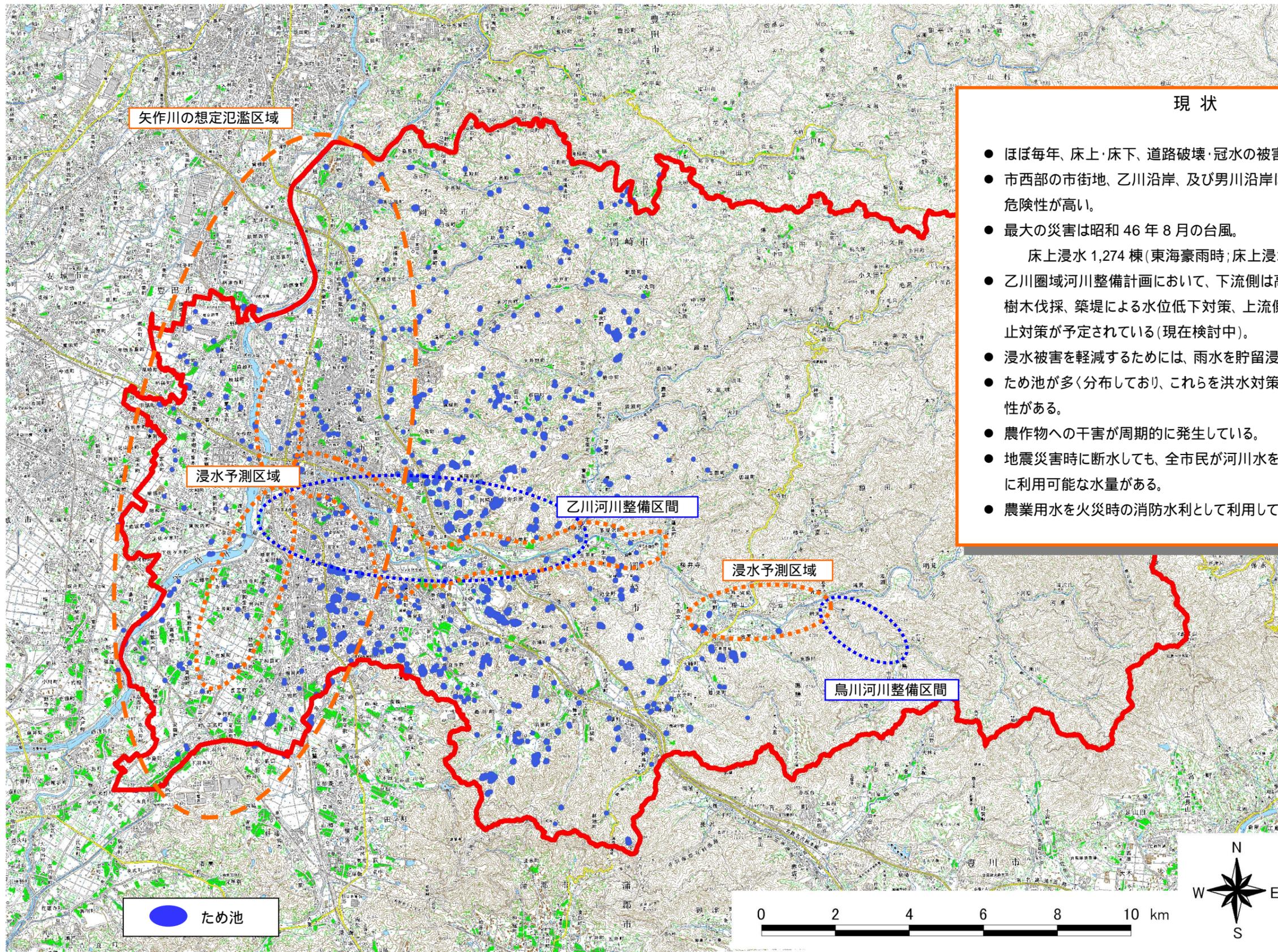


# 災害について



## 現状

- ほぼ毎年、床上・床下、道路破壊・冠水の被害が出ている。
- 市西部の市街地、乙川沿岸、及び男川沿岸は、浸水被害の発生の危険性が高い。
- 最大の災害は昭和46年8月の台風。  
床上浸水1,274棟(東海豪雨時; 床上浸水414棟)
- 乙川圏域河川整備計画において、下流側は高水敷掘削、遊水地、樹木伐採、築堤による水位低下対策、上流側は築堤による氾濫防止対策が予定されている(現在検討中)。
- 浸水被害を軽減するためには、雨水を貯留浸透させることも重要。
- ため池が多く分布しており、これらを洪水対策として利用できる可能性がある。
- 農作物への干害が周期的に発生している。
- 地震災害時に断水しても、全市民が河川水を生活用水(飲用不可)に利用可能な水量がある。
- 農業用水を火災時の消防水利として利用している。